

## 1年の成長

### 保川有梨

皆さまこんにちは。23年度グローバル補助金奨学生 保川有梨です。この1年を振り返り、皆様にご報告を申し上げます。

この1年、文化的背景の異なる環境での学業や生活に、様々な挑戦がありました。そういった中で幾度とない失敗を通して感じている一番の成長は、心の成長です。私自身、米国での生活は初めてではなかった為、大学院の始業と同時に授業に集中する事ができたのは幸いなことでした。多様な国から集まった仲間ととのプロジェクトは、当たり前ですが、日本の文化は通用しません。

「相手が意見を言い終わるまで待ってよう。」  
「周りにも発言のチャンスを与えたほうがいいかもしれない。」などと、自分自身の発言や発表の機会を逃すことが幾度かありました。そういった失敗は、貴重な学びの経験を与えてくれました。

「日本人として、日本の良さを大切にすることは重要であっても、海外で通用する日本人で有りたい。」周りの仲間や教授の発言、振る舞い方を観察しながら、自分の言動を軌道修正していきました。

多くの成長の機会は、自分自身が感じる違和感や疑問に隠されているように感じます。例えば、多文化のチームで構成されたプロジェクトに参加した際、価値観の違いからミーティングの開始時間がずれ込んだり、予想外のプレゼンテーションになることが何度かありました。こういった出来事から起こる疑問は、文化によっては計画外、即時的な対応をすることが日常的であったり、母国での激しい学歴競争社会から、協力よりも競争をする傾向があったりすることを理解させてくれました。ただ単に、自国の文化を理解してもらおうということではなく、相手の真意を理解し、こちらの思いを文化や歴史、習慣を交えて伝えようと

する意思や姿勢が相手を理解し、自分を理解してもらうことだと学びました。学校外でも、サンフランシスコでは多文化的背景をもった方々が多くいます。「両親は海外から来ているが、自分自身は米国で生まれ育ち、家庭の外と中では異なる教育を受けてきた。」などといったのはその一例です。「あなたは米国人だから」「米国の文化は」など大きな枠でくくるのではなく、その人ひとり理解するのは難しいことだと思います。なぜなら、自分と全く異なる状況や気持ちに共感するには限界があるからです。しかし、そのわからない状況に対して、「〇〇かもしれない」「〇〇だったら」と予想をしながら、疑問をもちながら接することで、見えてくるものがあると思い、疑問を大切にするようになりました。すぐに答えが出ない場合のほうが多いですが、その状況に慣れていくことは、人間関係を構築し、社会の理解を深める上で重要な部分だと考えるようになりました。

もう一つの成長は、厳しい状況の中で如何に最大の成果をあげられるように努められるかという点です。私の元来の性格上、物事に対して全力投球をする傾向があります。長所でもあるこの性格は、短所でもあります。やりたい、やるべきことが増えたときにやり切ることができなくともやろうとしてしまうからです。留学中、勉学やネットワークワーキング、ボランティアなど、やれることが豊富にある状況から、物事が手に負えなくなってしまうことがありました。切羽詰まった状況で締切に間に合わせよう、もっと良いものに仕上げようと意気込むと、余計に上手く行かなくなることが何度もありました。そういった状況に陥ると、「こんなに頑張っているのに」と一層自己に気持ちが向きがちで、自己中心的になっていることに気がつきました。しかし、勉学は社会に貢献するために、ネットワークワーキングは知識や見聞を分け合うために、ボランティアは地域社会を手助けするために、どれをとっても本来の目的は周囲の人のためにあります。私は、そういった目的からそれ

て自分に気持ち向きがちであったことに、苦しい状況に追い込まれてから気がつきました。それと同時に、周囲を見渡すと、苦しい状況をもとせずに乗り越えている人達がいることにも気がつきました。彼らは2つのことが非常に上手でした。それは常に人のために行動していることと、自分を心から癒す術をもっていることです。彼らの言動を見ていると、自分ができることに注力し、様々な状況で「与える」ことを得意としていました。また、自分の好きなことにも全力投球し、それに費やす時間を作ることを大切にしていました。私は、閉鎖的になっているときこそ、自分を見つめ直す必要があると思いました。

心の成長は筋肉トレーニングに似ているように感じます。一朝一夕のものではなく、毎日の積み重ねで育っていくものだからです。目に見えない分、筋肉トレーニングよりも難しいのかもしれませんが、一歩ずつの小さな気づきを積み重ねていくことが後の大きな前進に繋がると思います。学びを振り返り、獲得し、未来に繋げていくことは、未来の自分が周囲に繋げていくものを増やすためにこれからもっと精進していきたい部分です。

この1年間で、言い表せない程の学びがあったように感じています。それは、自分の環境が大きく変わっただけでなく、多様な人との関わり合いから生まれたものです。特に、市原ロータリーとホストSFロータリーの皆さまとの関わりは、周囲のために働くことの重要性を教え続けてくれた、貴重な存在です。このような人たちと縁をもつことができたことは自分の人生の中での貴重な財産となりました。

振り返れば1年ほど前、「炎天の遠き帆やわが心の帆」と決意を固めて日本を飛び立った日を思い出します。私は、まだ周りの方々から学びをいただくことの方が多いですが、いずれ自分も遠き帆のように、相手を鼓舞し、気づきを与えられる

ような存在になりたいと思います。まだまだ未熟ではありますが、今後も精進して参ります。